

「当院における高齢者・巨大・多数総胆管結石症に対する術後の長期予後を含む治療成績の検討」について

当センターでは、下記のとおり臨床研究（学術研究）を実施しています。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシーの保護については法令等を遵守いたします。

なお、あなたの試料・情報について、本研究への利用を望まれない場合には、問い合わせ先へご連絡ください。

1. 研究課題名

当院における高齢者・巨大・多数総胆管結石症に対する術後の長期予後を含む治療成績の検討
EPLBD 下截石術と EST 下截石術を比較して

2. 研究の対象および研究対象期間

2010年8月から2018年10月までに当院で大結石に対して施行したEPLBD下截石術249例とEST下截石術72例

2. 研究目的・方法

総胆管結石症は高齢者に多く、特に大結石や積み上げ結石など治療に難渋する症例も多い。これらの治療困難結石に対して、Endoscopic papillary large balloon dilatation (EPLBD) 下截石の有効性・安全性が近年多く報告され、普及しつつある。しかし偶発症の頻度や高齢者に対する安全性、また術後の長期成績など未だ不明な点も多く、後方視的ではあるがEST下截石と比較検討したい。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療内容、内視鏡・透視画像、偶発症等の発生状況、カルテ番号

4. お問い合わせ先

この研究についてご質問等ございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記にお申し出ください。資料・情報の使用を断られても患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究参加拒否の申出が、既に解析を開始又は結果公表等の後となり、当該措置を講じることが困難な場合もございます。その際には、十分にご説明させていただきます。

日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科

研究担当医師 上野山 義人

連絡先 073-422-4171（代表）（平日：9時00分～17時30分）